

くらし・福祉を守るあたたかい市政を

— 守岡政策委員長・井上議員先頭に新年度予算要望 —

横戸市長、「福祉灯油は議会に諮りたい」

後日、臨時議会で可決

去る12月19日、日本共産党上山市議団および日本共産党上山市委員会は、横戸市長に対し「2015年度政策と予算に関する要望書」を手交し懇談しました。

席上、守岡政策委員長は、「これからの国の方針は、施設から在宅へと変わっており、地域に多くの『医療難民』『介護難民』が放り出されかねない。上山市のこれからの地域包括ケアのあり方は、医療・介護・

福祉の窓口を一本化して、総合的に対応できる仕組みづくりが大切だ」と求めました。

横戸市長は、「国は在宅の方向を示しており、これから本当に大変になる。地域包括ケアはとても大事であり、本市でも地域包括支援センターを増設するなどして、しっかりと対応していきたい」との考え方を示しました。

また、新年度予算要望の重点の一つとして提起した、「高齢者世帯・低所得者世帯への福祉灯油助成制度の実施」に関しては、「今後議会に諮る」考えを示し、後日開催された臨時議会で福祉灯油の実施が決まりました。

「子育てするなら上山」の推進など重点11項目を要求

新年度の重点要望は、冒頭で紹介した「住民本位の地域包括ケアシステムづくり」も含め全部で11項目です。その大要を紹介します。

くらし・福祉を守る緊急課題

- 三人以上の子育て世帯には、在園児の数に関わらず保育料を減免すること。
- 七億円の基金を活用した国民健康保険税負担軽減を。
- 福祉灯油制度の実施を。

元気なまちづくりを推進する課題

- 住宅リフォーム制度の補助限度額引き上げ
- 中心市街地活性化基本計画推進のために、「まちなか商店リニューアル助成補助制度」の創設
- 空き家等対策計画のなかに、高齢者グループホームづくりを位置づけ、支援制度をつくらう。

市長は、高齢者共生ホームづくりが動き始めていることに関し、「市民自らの手による空き家活用の動きが出ていることは、市街地活性化にもいいことだ。今後こうした動きが広がることも期待したい」と述べました。

守岡・井上コンビでがんばります

